

参加者数 386名

◆ 平成24年度全国医師会勤務医部会連絡協議会

◇日時 平成24年10月6日(土) 9時45分から
◇会場 松山全日空ホテル4階ダイヤモンドボールルーム
◇主催 日本医師会
◇担当 愛媛県医師会

メインテーマ 『新しい医療の姿 - 勤務医の明日 -』

総合司会: 愛媛県医師会常任理事 佐藤博彦

【日程】

9:15~9:45 受付

9:45~ 開会式

開会	愛媛県医師会副会長	中島俊明
挨拶	日本医師会長	横倉義武
	愛媛県医師会長	久野梧郎
来賓祝辞	愛媛県知事	中村時広
	松山市長	野志克仁

10:05~10:55 特別講演1

「地域に寄り添う医療政策の実現に向けて」

日本医師会長	横倉義武
座長: 愛媛県医師会長	久野梧郎

10:55~11:45 特別講演2

「勤務医の処遇改善における課題と解決策案」

独立行政法人国立がん研究センター名誉総長 山形大学学長特別補佐/山形大学医学部脳神経外科教授	嘉山孝正
座長: 愛媛県医師会副会長	中島俊明

11:45~12:00 「日本医師会勤務医委員会報告」

日本医師会勤務医委員会委員長	泉良平
----------------	-----

12:00~12:05 次期担当県挨拶

岡山県医師会長	丹羽国泰
---------	------

12:05~13:00 昼食・休憩

13:00~14:00 シンポジウム1

「女性医師支援とその問題点」

座長: 愛媛県医師会常任理事	今井洋子
----------------	------

1.愛媛県の女性医師問題-アンケート調査結果と愛媛県内の取組み-

愛媛県医師会理事	今井淳子
----------	------

2.愛媛大学医学部マドンナ・ドクター養成プロジェクトの紹介

愛媛大学医学部総合臨床研修センター教授 高田 清 式

3.女性医師からの声

愛媛大学大学院病態情報内科学大学院生医員 飯尾千春子

(休憩 14:00～14:10)

14:10～15:10 シンポジウム2

「医療コンフリクト・マネージメントの活用」

座長：愛媛県医師会勤務医部会副部長 北 條 禎 久

1.医療コンフリクト・マネージメントとは：

医療メデイエーションの活用

早稲田大学大学院法務研究科教授 和 田 仁 孝

2. 愛媛県医師会の取組み

愛媛県医師会常任理事 今 川 俊 一 郎

(休憩 15:10～15:20)

15:20～16:20 シンポジウム3

「救急医療体制維持の工夫」

座長：愛媛県医師会勤務医部会副部長 梶 原 伸 介

1.都市部の救急体制-松山医療圏の救急医療輪番制の歴史と現状-

愛媛県立中央病院救命救急センター長 濱 見 原

2.遠隔地の救急体制

-八幡浜・大洲圏域の救急医療体制の現状と地域医療再生計画による取組み-

愛媛県八幡浜保健所長 武 方 誠 二

シンポジウム終了後<総合ディスカッション>

司会：愛媛県医師会常任理事 佐 藤 博 彦

コメンテーター： 日本医師会常任理事 小 森 貴

16:50～16:55 愛媛宣言採択

愛媛県医師会常任理事 佐 藤 博 彦

17:00 閉会

愛媛県医師会副会長 中 島 俊 明

18:00～19:30 懇親会

アトラクション

司会： 愛媛県医師会常任理事 今 井 洋 子

挨拶 日本医師会長 横 倉 義 武

愛媛県医師会長 久 野 梧 郎

乾 杯 岡山県医師会長 丹 羽 国 泰

閉 会 愛媛県医師会副会長 羽 鳥 重 明

日本医師会勤務医委員会臨床研修医部会 in 愛媛県

日時 平成 24 年 10 月 5 日 (金) 午後 3 時～5 時
会場 松山全日空ホテル 3 階「ローズルーム」

次 第

1. 開 会
2. 日本医師会役員挨拶・日本医師会の紹介
3. 自己紹介
4. 議 事
 フリートーキング
 (臨床研修制度・医学部教育・臨床研修後の進路 等)

配付資料

1	出席者名簿
2	日本医師会紹介資料・パンフレット
3	「医師臨床研修制度」に係る勤務医委員会臨床研修医部会からの意見・提言(平成 23 年 3 月 28 日)
4	「医師養成についての日本医師会の提案 - 医学部教育と臨床研修制度の見直し (第 2 版) (2011 年 4 月 20 日)」要約資料
5	現行の医師臨床研修制度について (厚生労働省資料)
6	「医師臨床研修制度の評価に関するワーキンググループ(第 7 回)」資料より 1 臨床研修アンケート 臨床知識・技術・態度の習得状況と経験症例数 2 入院患者アンケート集計 (中間解析) 3 臨床研修に関するアンケート調査 研修医アンケート調査結果概要(中間報告)
7	『医師の職業倫理指針〔改訂版〕—平成 20 年 6 月—』
8	「日本医師会臨床研修医支援ネットワーク」パンフレット
9	医学生のための無料情報誌『ドクターゼ』創刊号・第 2 号

勤務医委員会臨床研修医部会 in 愛媛県
＜出席者名簿＞

さとう ひろかず
佐藤 裕一 愛媛大学医学部附属病院 《初期研修 1 年目》

みなもと まゆ
源本 真由 愛媛大学医学部附属病院 《初期研修 2 年目》

たかはし たつのり
高橋 龍徳 愛媛県立中央病院 《初期研修 2 年目》

おち まりえ
越智 麻理絵 愛媛県立中央病院 《初期研修 2 年目》

なみぐち けんじ
浪口 謙治 愛媛県立中央病院 《初期研修 1 年目》

よしや けいじ
吉屋 圭史 松山赤十字病院 《初期研修 1 年目》

ふじわら まさき
藤原 礼宜 松山赤十字病院 《初期研修 2 年目》

ふじい ゆうと
藤井 裕人 松山市民病院 《初期研修 1 年目》

みやもと まちこ
宮本 真知子 済生会松山病院 《初期研修 1 年目》

おおつか よしひろ
大塚 祥浩 済生会松山病院 《初期研修 1 年目》

《日本医師会 役員》

いまむら さとし
今村 聡 日本医師会副会長

こもり たかし
小森 貴 日本医師会常任理事

《オブザーバー》

いずみ りょうへい
泉 良平 日本医師会勤務医委員会委員長
富山県医師会副会長

しみず のぶよし
清水 信義 日本医師会勤務医委員会委員
岡山県医師会副会長

担当事務局：日本医師会企画課

医の一步 地方で磨く

東予2病院に3人 研修医奮闘

2004年度開始の新医師臨床研修制度は医学生が幅広く研修先を選べる一方、都市部への医師集中を招いたとされる。地方の病院にとって研修医獲得は、将来の医師定着という面から課題だ。そんな中、医師不足が厳しい状況が続く東予地方で200床未満の2病院に4月、研修医計3人がそれぞれ2年ぶりに着任し腕を磨いている。



「このラインで行くを吸い取る手術が始まった。6月下旬、四国中た。エコーの映像を見ながら、修医の大道泰之さん(29) 中央の石川病院(153)からカテーテルを入れる。徳島大卒、徳島県出身。床で胆のうからうみルートを説明する指導医。『病気が分かっても処置できないと意味がない』と臨床の重みをかみしめた。

同じころ、西条市立南桑病院(111床)には、浮田友秀さん(26) 愛媛大卒、松山市出身。村川広太さん(25) 岡山新居浜市出身が研修に励んでいた。

特有の利点

愛媛大医学部付属病院総合臨床研修センターによると、学生らの研修先

石川病院(指導医(左)から修医のノハウを学ぶ大道泰之さん(中央)と指導医のノハウを学ぶ本橋隆太さん(右)月曜日、四国中央市

勤務医を取り巻く課題を話し合った全国医師会勤務医部会連絡協議会
＝6日午後、松山市一番町3丁目



地域医療の再興必要

松山で全国勤務医シンポジウム

2012年度全国医師会勤務医部会連絡協議会が6日、松山市一番町3丁目の松山全日空ホテルであり、全国から参加した約360人の勤務医や研修医が、講演やシンポジウムを通じ、女性医師の労働環境整備や救急医

が「新しい医療の実現に最も必要なのは地域医療の再興。それに必要な医療現場の実情を理解しているのは第一線に携わる皆さんだ。あらゆる立場を超え、課題に取り組みたい」とあいさつした。シンポジウムでは、県内の医師が、救急医療体制を維持するため、当面明けても翌日、労働環境整備や救急医に通常勤務する過酷な

患者と出会う最前線 幅広い診療可能

医師の臨床研修 新人医師は大学院や厚生労働省が指定する臨床研修病院で2年間、診療のノウハウを学ぶ。業務が重なり、タリが両者を組み合わせる。

各診療科共通。各科の臨床研修。研修医受け入れに意見求めやすい。が医師定着に直結するわけはない。石川病院は「普通」と言えるのは、石川病院で4～6月に研修院全体で育成する29病院で、地域別では中修した愛媛大病院在籍のため、院内の活気が上がる」と話す。

研修医本部長(左)と高知大卒、愛媛南出身。病院にとっては逆風もある。国は09年度、臨床研修病院の指定基準を「年間入院患者3千人以上」の要件を加えた。県内では研修医の受け入れ実績も考慮されたが、東予予の5病院が11年度分から指定を外れた。

愛媛大病院総合臨床研修センターの高田清式センター長は「大病院の高次診療も中小病院の初期診療もどちらも重要。臨床研修の受け入れ方も組む。『愛媛全体で医師を育てる』という意識を関係機関で共有していきたい」と話している。

院内に活気。若手医師が地域医療を見つめる機会となる臨床研修(本橋隆太、今西晋)